



第一六五回中国理解講座シリーズ諸子百家 其の三

『孔子世家譜』と 論語の一節

講師 ● 孔令竹氏 孔子第七十六代目子孫

日時 ● 七月三日（土） 十時～十一時半

場所 ● 立命館大学衣笠キャンパス 学而館 312 教室

孔子（紀元前五五一―紀元前四七九）から現在までは、すでに二千五百年の歴史がある。孔子の後裔が増加するにつれて、孔子の家譜が誕生した。私は二〇〇八年に家族と日本に渡って、府大に入学し、孔子世家譜について研究した。私は孔子家譜の滕陽戸に属している。滕陽戸に記録している孔子一族人はすべて孔子嫡孫第五十六代目衍聖公希学の二番名の弟の三番目の息子孔閻の子孫である。孔閻は処士である。孔子第五十九代目の子孫孔彦韶に至り、全員滕県西にある級索村（現在の級索鎮）に転居した、その後、転居した孔子の子孫はみな第五戸―滕陽戸と定めた。

残り時間で、論語の初めの一節“有朋自远方来，不亦乐乎”を中国語で読んで紹介したいと思います。

参加無料・要事前予約

詳細・お申込みはこちら↓

